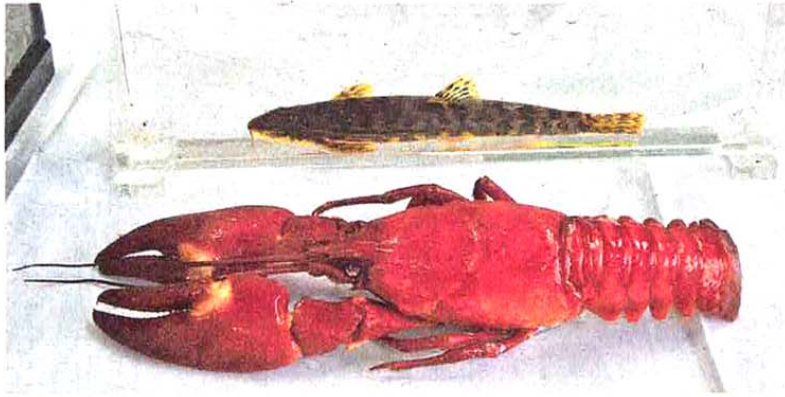


# 生態系、漁業に悪影響

## ウチダザリガニやフクドジョウ



阿賀野川、信濃川水系を通じて外来水生動物について考える「生物多様性シンポジウム2021」が、五泉市の市総合会館で開かれた。ウチダザリガニとフクドジョウなどの外来種が県内でも相次いで確認されている現状が報告され、生態系や漁業への影響を防ぐため早急な対策が必要との提言がなされた。

五泉市内で淡水魚のイバラトミヨの保護活動を行うNPO法人・五泉トゲソの会などが企画し、昨年12月に開催。阿賀野川と信濃川でつながる新潟と長野、福島3県の関係者ら約70人が参加した。



▲阿賀野川などで生息が確認されたフクドジョウ(上)とウチダザリガニ ▲外来水生動物の生態系への影響などについて報告する井上さん(右奥) 11月19日、五泉市で比企一夫さん撮影

## 五泉でシンポ「外来水生動物 駆除強化を」

「阿賀野川水系の外来魚類の現状」と題したパネルディスカッションがあり、市民団体「生物多様性ネットワーク新潟」の井上信夫さんが、環境問題に携わる参加者らと意見交換しながら現状を報告した。

それによると、北米原産のウチダザリガニは、体長がハサミを入れると25センチにもなる。食用として国内に持ち込まれたが、水草や水生動物の食害、水産被害などをもたらす恐れがあり、環境省が特定外来生物に指定したという。1998年に阿賀野川水系の福島県裏磐梯の小野川湖などで生息が確認され、県内も2011年の新潟・福島豪雨後、阿賀町内の阿賀野川で捕獲されたほか、五泉市内の阿賀野川・頭首工上で捕獲情報がある。

フクドジョウは北海道のみに自然分布する国内外来種で、繁殖力や遊泳力が強く大量の水生昆虫を食べて成長し、同じ環境に生息するカジカも捕食する。近年、福島県などで移入分布が確認され、五泉市内の阿賀野川水系、早出川でも多数の個体が発見されている。

井上さんは「ウチダザリガニは阿賀野川下流まで分布を拡大している可能性が高く、駆除の推進や関係組織への情報発信を強化すべきだ。フクドジョウについては捕獲、除去の必要があり、特にカジカ漁業権を持つ漁協が心配だ」と指摘した。

このほかシンポジウムでは、元水産総合研究センター主幹研究員の片野修さんが、欧州原産で産業管理外来種のブラウントラウトと北米原産で特定外来生物のククチバスについて「千曲川・犀川の外来魚の現状と防除活動」と題し、講演した。